

>>>> 特許登録 <<<<<

「高強度、高真球度シラスバルーンの製造方法」

県が平成20年9月8日に特許出願した「高強度、高真球度シラスバルーンの製造方法」が、平成24年12月7日に特許登録されました（特許第5145498号）。

本発明は、含水量3.0質量%以上のシラス原鉱粉末を350～500℃において、含水量1.46～2.90質量%まで高温乾燥し、次いで内燃式媒体流動床炉を用いて980～1090℃の温度範囲内で焼成することを特徴とする、8MPaで1分間の静水加圧後の静水圧浮揚率50%以上に相当する耐圧強度を有する高強度、高真球度シラスバルーンの製造方法に関するものです。本発明により、シラスバルーンの品質が向上し、断熱塗料や軽量複合材などへの新規需要の開拓が期待できます。



「低温発酵性酵母」

県が平成19年6月7日に特許出願した「低温発酵性酵母」が、平成24年12月7日に特許登録されました（特許第5145508号）。

本発明は、醤油醸造において、低温かつ高pHの条件であっても増殖、アルコール発酵が旺盛な醤油用酵母、及び当該酵母を使用する発酵食品の製造方法に関するものです。

この酵母は、15℃程度の低温となる醤油もろみの初期であっても休眠することなく旺盛に発酵します。この酵母を用いることで醸造期間を短縮できるため、特に淡口醤油もろみでは着色を抑制し醤油の淡色化が可能となります。



「金属の塑性加工シミュレーション用モデル材料」

県が平成20年2月20日に特許出願した「金属の塑性加工シミュレーション用モデル材料」が、平成25年1月25日に特許登録されました（特許第5181120号）。

本発明は、鍛造加工、押出し加工といった金属の塑性加工において、被加工物の変形過程を数千分の1以下の小さい応力で再現できるモデル材料を提供するものです。

このモデル材料は、加工中の金属材料の流動過程の解析および定量化が可能な実験シミュレーションに使用される材料で、金属の変形特性値である加工硬化指数を広い範囲で調整することができます。これまで、市販のモデル材料では対応できなかった多くの金属材料のシミュレーションが可能となります。



>>>> 特許登録 <<<<

「木炭ボードの製造方法」

県と荏原早準氏が共同で特許出願していました「木炭ボードの製造方法」が、平成25年2月1日に特許登録されました（特許第5186625号）。

炭化した木炭（竹炭を含む）を主原料とした木炭ボードを開発するため、木炭と天然系バインダーであるグルコマンナンの混合割合や成型条件について、また、強度補強するための紙くず（書類の裁断くず）の混合割合や表素材について検討し、製造したボードの曲げ強度性能を評価しました。

その結果、ボードの表面を障子紙で被覆し、紙くずを木炭の10%以上混合することで、石膏ボードと同等の曲げ強度を有する木炭ボードを開発することができました。



「木造建物の壁補強フレーム及び壁補強方法」

輝北プレスウッド株式会社と県が共同で特許出願していました「木造建物の壁補強フレーム及び壁補強方法」が、平成25年3月29日に特許登録されました（許第5228164号）。

木ダボを用いた接着工法で格子状の木製フレームを作製し、木造建物の柱及び横架材で囲まれた枠内にボルト及びナットを用いて固定することで、建物の耐震性及び耐風性を高められるようにしました。また、フレームを工場生産することで、低コスト化を図るとともに、建築現場における立作業の時間短縮及び労力低減を図ることができました。

その結果、従来の壁補強方法に比べ、強度性能及び施工性に優れた壁補強フレームを製造することができました。



>>>> 鹿児島県職業能力開発協会表彰を受賞 <<<<

鹿児島県職業能力開発協会が開催する技能検定で、検定委員を務めた生産技術部 瀬戸口正和部長と生産技術部 岩本竜一主任研究員が6月3日に同協会長表彰を受賞しました。

この技能検定は、技能を一定の基準により検定し、国として証明する国家検定制度で技能に対する社会一般の評価を高め、働く人々の技能と地位の向上を図ることを目的として、職業能力開発促進法に基づき実施されています。昭和34年に実施されて以来、年々内容の充実を図り、確かな技

能の証として各職場において高く評価されています。

今回は、長年にわたり技能検定委員を務め、技能検定の発展に尽力した功績をたたえられての受賞となりました。

職 種	氏 名
鉄 工	瀬戸口正和
機械加工 機械検査 機械保全	岩本 竜一